

# どくだみの花 別れんとする我がこころの友に捧ぐ ： 短歌

著者	工藤，重之
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 6 7
ページ	6 6 - 6 6
発行年	1918-06-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6803">http://hdl.handle.net/2298/6803</a>

# どくだみの花

——別れんとする我がこころの友に捧ぐ——

離 愁

二部三年 工 藤 重 之

聲あげて泣くはおろかし詩緒<sup>うたじ</sup>はあまりに細し離愁なるかな  
月を仰ぎふと驚きて留りぬアルデブランの星見ぬかな  
大學の徽章をもらふ哀しさよ野に若草の萌ゆるめしかな  
かのひとは冷かく君ははなやかに我は寂しくなれる三年よ  
しみじみと君と語りし逝く春の招魂祭の宵をわすれず  
涙して淋しと云ひし藤崎のかの宵のごとかなしき君よ

雲 雀 の 巢

雲雀の巢さがす少年<sup>こゝ</sup>の臥してある河原にゆるゝ月見草かも  
あゝ雲雀姿は見えず一面に夕焼くる空にしきり囀づる  
水の面<sup>おもて</sup>に小さき魚の波紋かく夕べはかなし月見草咲く  
城跡のひともと椿風にゆれ二つの春は白う暮るゝも  
街の灯はまたゝき居たりいだき「バベルの塔」の星月夜かな  
名も知らぬ小島たわぶれ静かにも雑木林に黄昏<sup>たそが</sup>るゝ春